

気品の岸・美の学園

— 希望の登校、満足の下校 —

校長 山浦 麻紀



サクラ
花言葉・「精神の美」

4月1日、正門の満開の桜と、元気いっぱいの子どもたちのあいさつに迎えられ、さいたま市立岸中学校に着任いたしました、校長の 山浦 麻紀 と申します。前任の 田邊 泰 校長先生より、伝統ある岸中学校を引き継ぎ、身の引き締まる思いです。微力ながら全力を傾注する所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

本日、入学式を挙行了いたしました。新入学生187名を迎え、生徒600名、教職員55名で令和5年度をスタートいたします。今年度も、職員一同、力を合わせて子どもたちの「希望の登校、満足の下校」ための教育活動に邁進してまいります。

さて、脱コロナ、ポストコロナの令和5年度を、どのように **well-being** (ウェルビーイング) 生活をデザインしていくか。今、学校は、**Society 5.0**時代の社会の中を、心豊かにたくましく生きる子どもを育成することが大切であると考えます。

心豊かにたくましく生きる子とは、一人ひとりが**個を確立**し、**公の発展**に尽くすことのできる人間です。

個を確立するとは、「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する最適解を見つける能力」「豊かな人間性」「健康な心と体」を持った人間を意味します。**公の発展とは**、互いに助け合い、力を合わせて、社会をよりよく発展させていく意欲に燃えた人間を意味します。

そこで、今年度の教育目標は、「真理・感性・実践」と致しました。そして、次のような生徒の育成を目指してまいりたいと考えております。

- 真理とは : 意欲的に学び、深く考える生徒になろう。
 : 夢を持ち、努力する生徒になろう。
- 感性とは : 得て不得手を認め合い、温かい心を持つ生徒になろう。
 : 広い視野から、さまざまなよさを発見する生徒になろう。
- 実践とは : 健康で逞しい生徒になろう。
 : 最適解を見出す判断をし、主体的に行動する生徒になろう。

また、子ども達の教育は、学校という場所でのみ、なし得るものではありません。学校、家庭、地域が一体となって子ども達の教育にあたることが不可欠です。本校の教育活動推進にあたり、保護者の皆様、地域の皆様には、今後とも折りにふれ忌憚のない御意見と、御理解、御協力を賜りたく重ねてお願い申し上げます。